

＜目的＞ フレアースカートのドレープ形態は、素材の物性、布目使いや縫製条件などによって様々な影響を受ける。本報では、縫い目がスカート形態に及ぼす影響を明らかにするため、スカートのはぎ枚数を変化させてドレープ形状を検討した。試料布の選択には、近年開発された高ドレープ性素材に注目し、同試料を含む21種の力学的性質の異なる試料布を用いてフレアースカートを作製し、はぎ枚数に伴うドレープ形態の変化を測定した。

＜方法＞各試料布についてKES-FBシステムを用いて、基本力学量を測定し、高ドレープ素材の特性を検討した。これらの試料布から綿ブロード、ポリエステル羽二重および高ドレープ性能ポリエステルの3種を用いてスカート丈、裾幅を一定とし、はぎ枚数がそれぞれ2、4、6、8枚であるフレアースカートを作製した。婦人9号サイズの人台にスカートを着装させ、写真撮影により、正面、側面、ヘムライン形態を測定した。さらに縫い目部分のシミュレーション試験を行い、ドレープ形態に及ぼす縫い目の曲げ特性ならびに試料布の力学特性の影響について検討した。

＜結果＞高ドレープ性素材は他の試料に比べ、重量の割に曲げ剛性、せん断剛性が小さく、フレアースカートは、他の試料よりも、広がり小さい、ノードの細かなドレープとなった。一般にスカートのはぎ枚数が増えるとノード数は増加し、裾角度は大きく、すなわち裾の広がりが小さくなり、ヘムラインの山の高さは小さくなるが、高ドレープ性能ポリエステルは、はぎ枚数が増えると縫い目の部分で巻き込み現象を生じ、ドレープ効果が抑制されるなどの結果が得られた。